

第45回名古屋の旧町名を復活させる有志の会

於、札幌かに本家金山店

2015.11.28

# 名古屋城下町歴史散策マップ

名古屋大学・溝口常俊



広小路の朝日神社前（『享元絵巻』1730-39）

# 本日の発表内容

## 1. ぶらり本町通り

1)「名古屋城下町歴史散策マップ」の配布

2)名古屋城下を知るための基礎

①地形：デジタル標高地形図

②歴史資料：

「鸚鵡籠中記」(1696-1722)

「享元絵巻」(1730-39)

「尾張名所図会」(1844)

「名古屋大火図」(1660),「尾府名古屋図」(1714)などの絵図

「寛文村々覚書」(1672),「尾張順行記」(1822)などの地誌

③五条橋(堀川、京町筋)で城下町の立地を考える

### 3) 本町通りを歩いてみよう

① シャーロック・ホームズになろう

② 実践例

## 2. 本町通りの活性化案

1) 「城から宮へ」というストーリー作り

2) スタチュー(銅像)芸人の登場を願う

3) ゾウの町なごや、にしよう

4) 下を向いて歩こう: マンホール歴史学

5) 小さな親切を実践し、名古屋の良心をひろめよう

# 1-1)「名古屋城 下町歴史散策 マップ」の配布

ほんほんど動  
「本町通」とは...

名古屋城  
本町通  
出来町通  
市役所  
外堀通  
桜通  
久屋大通  
丸の内  
伏見通  
伏見  
大津通  
栄  
錦通  
広小路通  
若宮大通  
矢場町  
大須観音  
大須通  
上前津  
山王通  
東別院

地下鉄  
鶴舞線  
桜通線  
名城線  
東山線

本町通は、名古屋城の正門から南の熱田へと延びる、南北の幹線道路です。

清須越

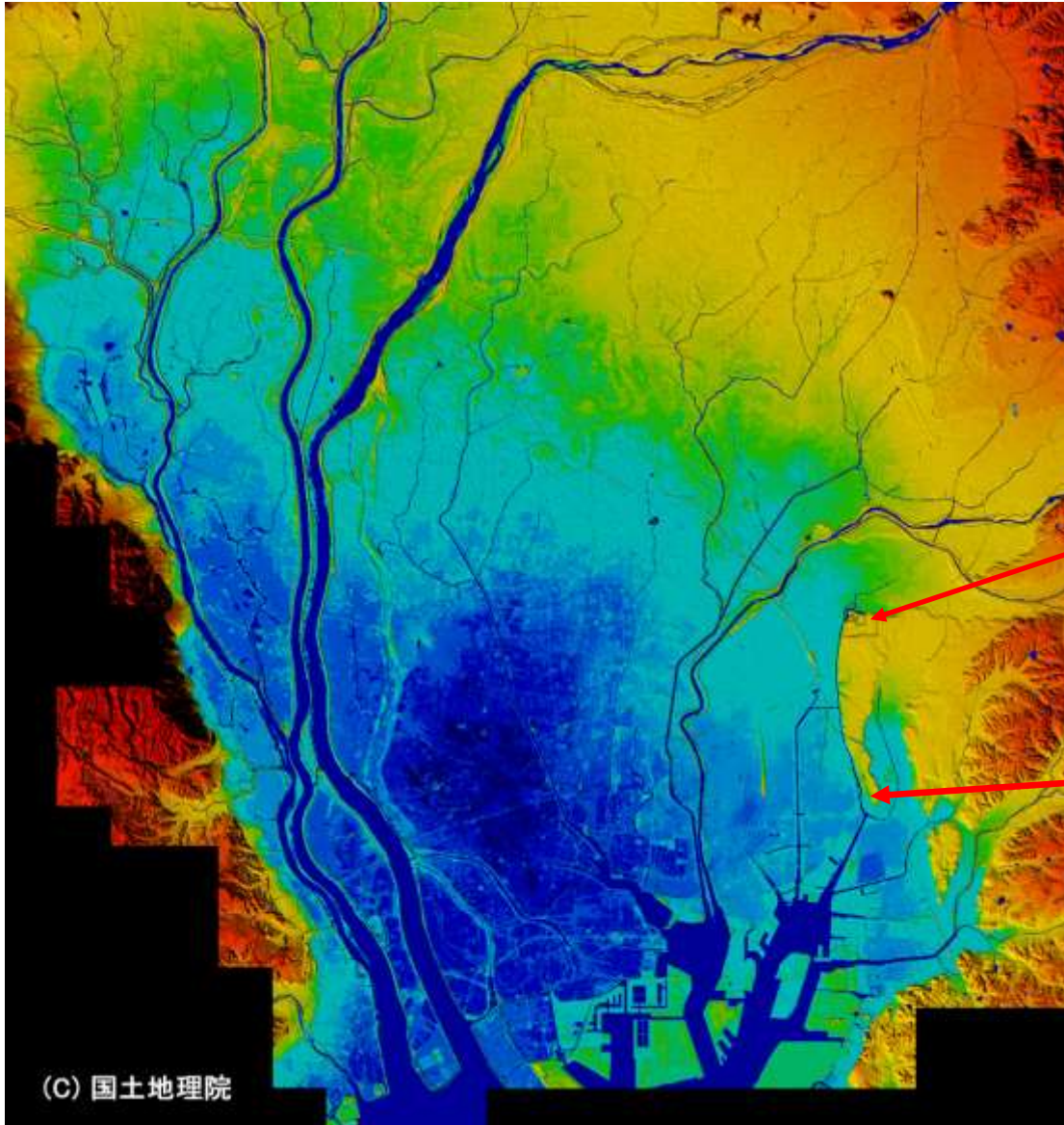
慶長15年(1610)、名古屋城の築城開始に合わせ、清須の町が名古屋の城下町として移転してきました。当時の清須は、尾張最大の都市で、大勢の住民が居住し、寺社も数多く存在していましたが、そのほとんどすべてを名古屋へ大移動させました。これがいわゆる「清須越」です。

ぶらり  
本町通

名古屋城下町歴史散策マップ

# 1-2)名古屋城下を知るための基礎

## ①地形: デジタル標高地形図



熱田台地(名古屋台地)はゾウの鼻の形をしており、その北端に名古屋城、南端に熱田神宮がある。

台地の西境に堀川が流れる。

ゾウの鼻と前足の間到低地があり、そこに精進川(現在は新堀川)が流れていた。

名古屋城

熱田神宮

# 1-1) ③五条橋(堀川、京町筋)で城下町の立地を考える



いとう呉服店



美濃忠の「ごっさま」

伊藤呉服店↑

薬祖 少彦名命→



# 1-3) 本町通りを歩いてみよう

## ① シャーロック・ホームズになろう:「見る」から「観る」へ



本町通り↑



ロンドンの地下鉄の駅



ワトスンとホームズ



# 本町橋（愛知県産業貿易会館北）



下を向いて歩こう  
マンホールで町を語る



# 石巻焼きそば



## 料理店主転身 中区で石巻焼きそば

### 舌も喜ぶ復興応援



人気メニューになった石巻焼きそばを客に出す加藤治さん＝名古屋市中区丸の内

名古屋市中区丸の内にある飲食店「美亜屋」で、宮城県石巻市の「当地グルメ」「石巻焼きそば」が人気だ。店主の加藤治さん（@じ）名古屋市中区丸の内が、東日本大震災の爪痕も生々しい現地で出会った味を名古屋風に再現。「多くの人が震災を忘れないように」と作り続ける。

（杉原雄介、写真も）

加藤さんは以前、名古屋・栄でハワイ料理の専門店を経営。常連客の一人に石巻市在住で出張の際に顔を出してくれる男性がいた。二〇一一年三月十一日に震災が発生し、一週間近くがたつて男性とようやく連絡がついた。問題でも立ってもいられず石巻へ向かった。男性と再会を果たした。

後、多くの被災者と出会った。子どもと一緒に津波に流され、自分だけが電話ボックスの上に流れ着いたという母親は「離れた子どもへの手の感触が忘れられない」と泣き崩れた。励ましの言葉も出なかった。

「自分も何かしないと」。

市内の商店街で炊き出しを手伝い、そこで石巻焼きそばを知った。一時間蒸した太い麺を、昆布とカツオのだしで味付け。「味も歯応えも、初めての感覚」。料理人として興味が湧き「焼きそばを作ることで、自分なりの復興支援ができるかも」と考えた。

一一年七月から屋台を引いて名古屋市内のイベント会場などを回り、石巻焼きそばを売った。最初は「いしまき」と読むお客さんが多かったが、今はきちんと「いしのみき」と読んでくれ、知名度向上に少しは役立てたかな」と、お互いのためになる関係を喜ぶ。

石巻を今も年に三、四回訪れる加藤さん。通学路の橋が壊れたままの現状などを見て「復興は準備が足りない。震災を忘れられるのが一番怖い」と痛感する。

「焼きそばを食べた人が石巻の存在を知り、被災地支援へつながるのが理想。そばのきっかけを作りたい」。

そばを売り始めた。ハワイ料理の店をたんで時間をつくった。「後先を考えると」と言う常連客の引き留めにも迷わなかった。

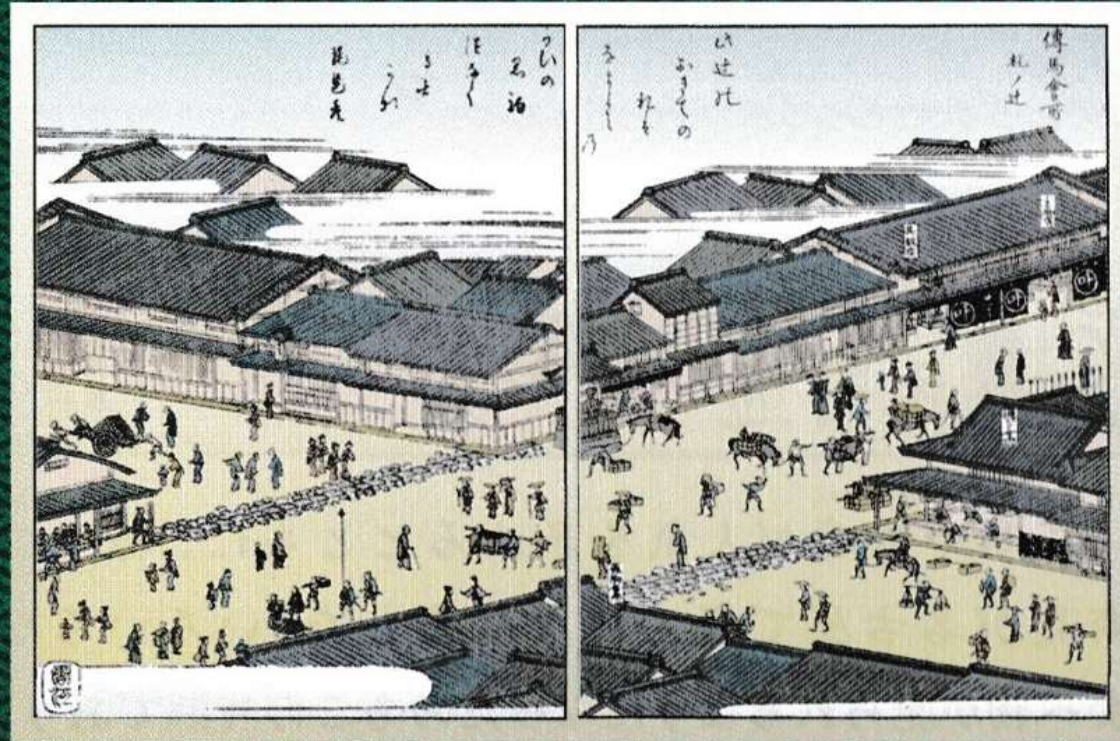
本場の麺を使い、だしを名古屋向けに濃くした。「次はどこで売るの」と聞かれて手応えを感じ、美亜屋で出すことにした。今は定食やカレーライスなどメニュー二十八種類があるうち、注文の半数近くが石巻焼きそば。売り上げの一部は被災地に寄付している。麺を卸す宮城県東松島市の製麺所経営小野寺厚子さん（@こ）は「県外の人が頑張ってくれていると、自分たちにも励みになる」と感謝する。





ふだ つじ  
札の辻

本町通と伝馬町筋が交差する地点で、<sup>こうさつ</sup>高札が掲げられたことから、「札の辻」と呼ばれました。碁盤割の中心地であり、様々な街道の起点でした。



本町通り

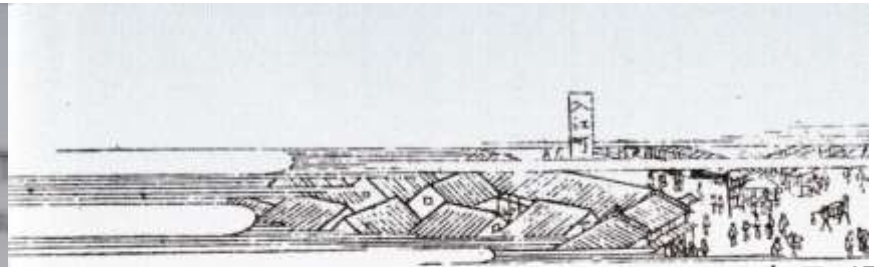
伝馬会所札ノ辻 (出典:『尾張名所図会』1844)

廣小路  
夜見世

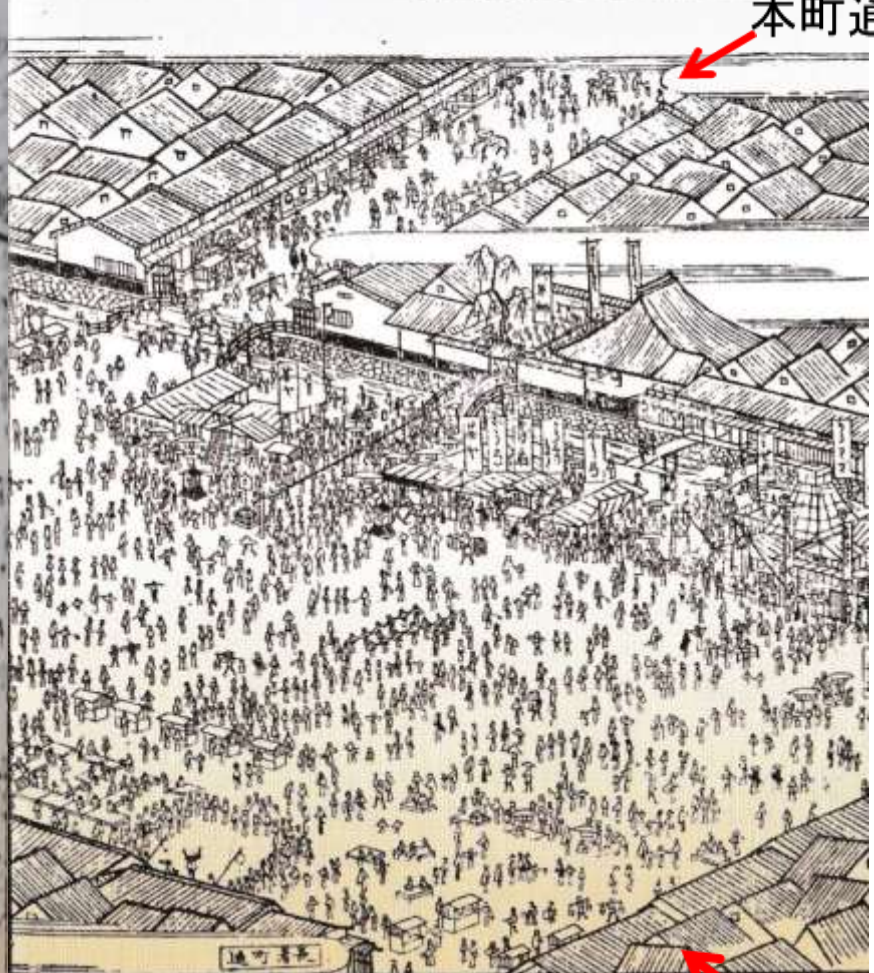
柳甚多  
お茶屋も  
多し  
遊録に  
あの日  
油屋の地  
と度小路  
柳甚多  
お茶屋も  
多し  
遊録に  
あの日  
油屋の地  
と度小路



夜見世



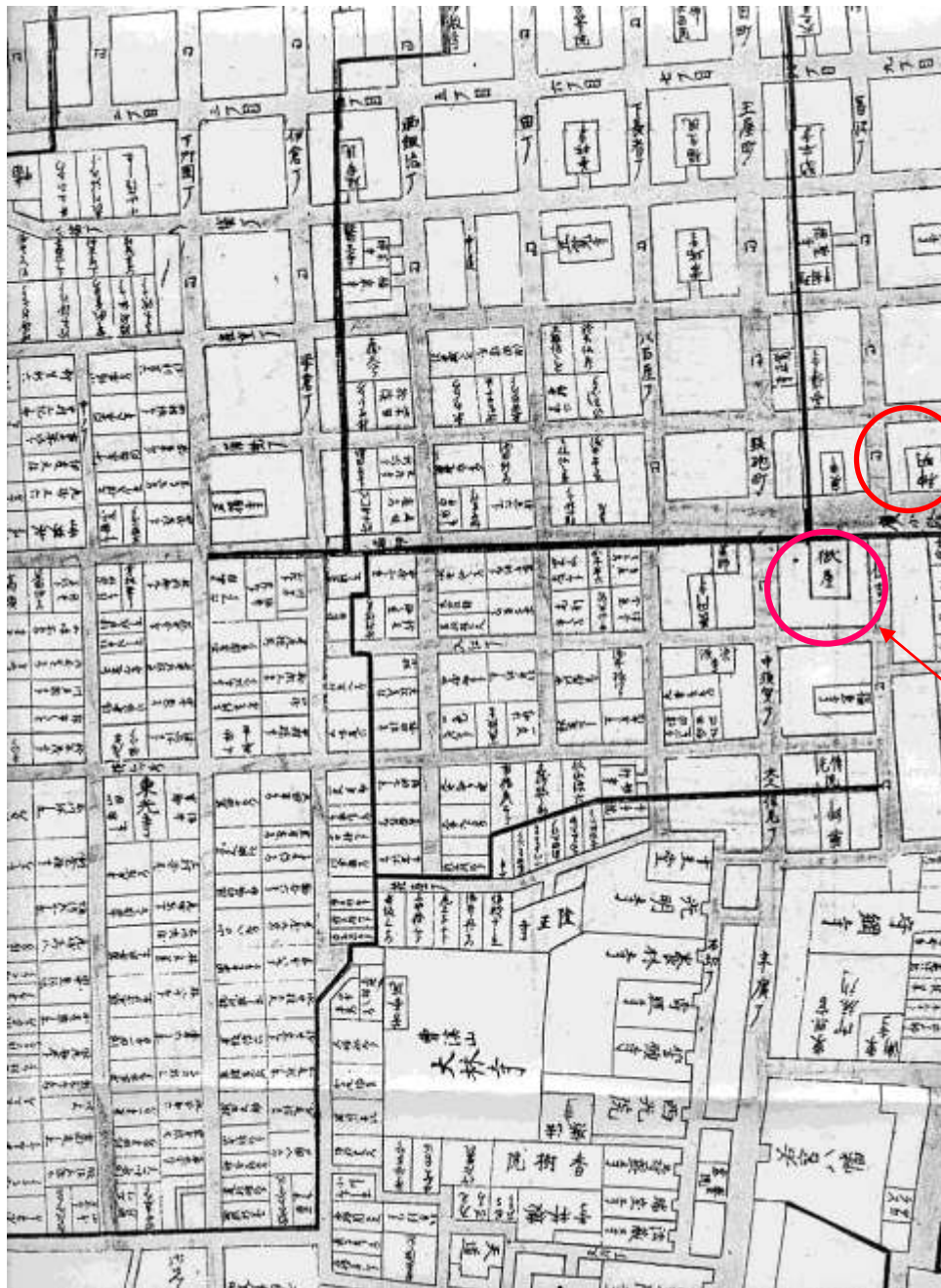
本町通り



広小路

# 広小路夜見世

(出典:『尾張名所図会』1844)



神明:朝日神社

広小路通り

幕末に獄屋あり

本町通り



「享元絵巻」1730-39

図7 広小路にて一カップルの外出は珍しくなかった



図5 享元絵巻 1730s



本町通り →

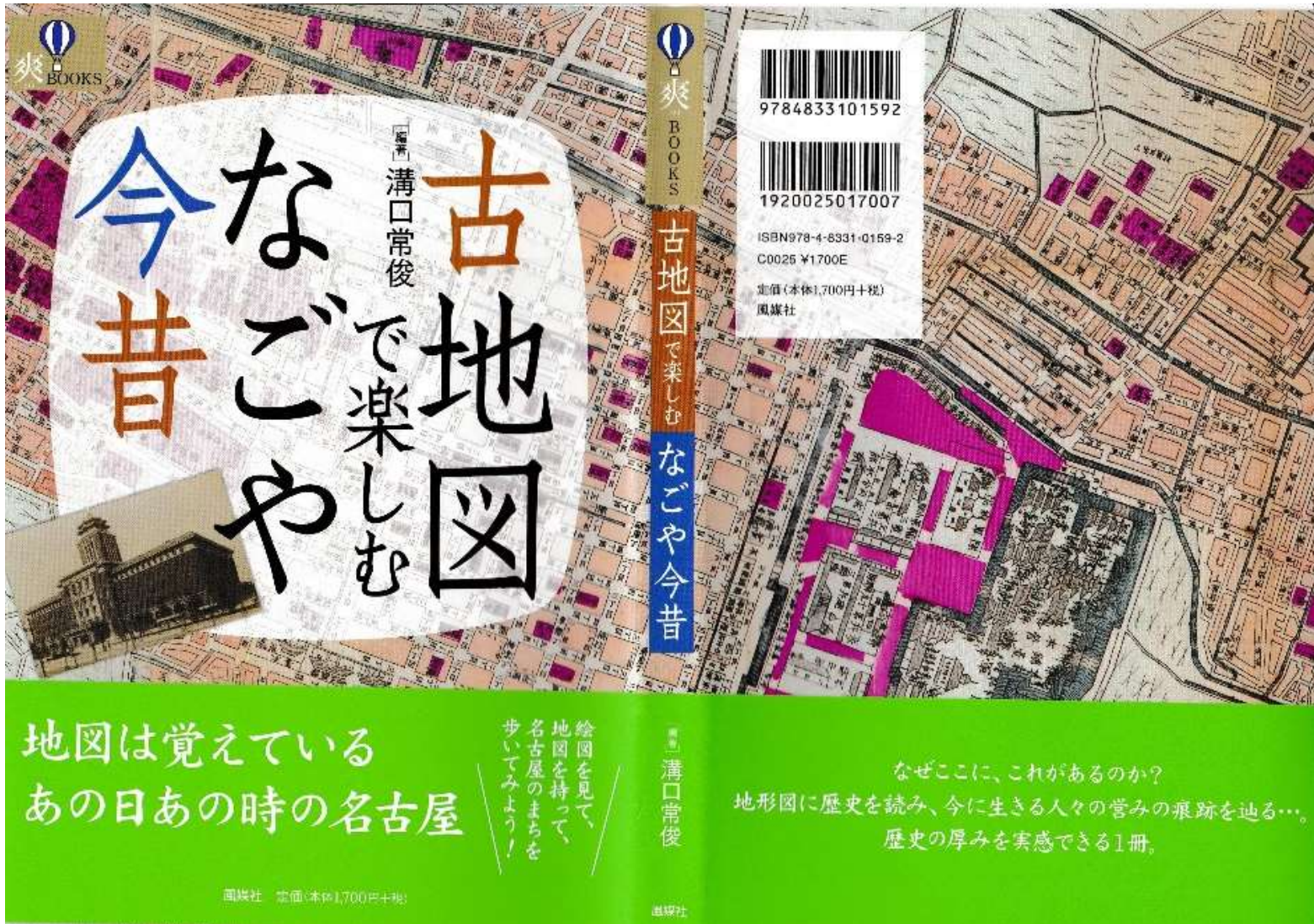
広小路通り



大須観音



# 『古地図で楽しむなごや今昔』 風媒社、2014. 4. 21 発売、¥1,700+



# 『享元絵巻』を解説する



**1** 典型的な武士：  
刀を差して、はおり  
を着て、編み笠を被  
る。



**2** 曲芸師



**3** 典型的な町人：  
着物をきて、丸頭の  
後ろで鬘を結う。



**4** 誘惑する女性



**5** 誘典型的な女性：  
着物に帯を締め、  
髪を結う。



⑥四輪車で移動



⑦赤福餅の店 (右)  
芝居弁当の店 (左)

\*大須観音でお参りしたあとは、赤福もちと弁当を買って、芝居見物をして、そして遊郭へ足をのばした。武士も町人も、こんな人が多かったのでは、と思う。

### ●鳥の目になって、絵巻全体を眺めてみた

- ①季節が右=北(広小路と本町通りの交差点)から左=南(葛町の端)に行くにつれて春から秋に移っていた。春は桜、秋は紅葉でわかる。松は通して描かれていた。
- ②本町通りと交差する各道路に「木戸」があり、城下町の各所の出入りがチェックされていた。
- ③寺院と神社が各所に配置されているのと、やぐらでの太鼓たたきも各所にあり、信仰と芸能が共存していた。

### ●虫の目になって、絵巻の中の全登場人物を数えてみた

- ①総人数 1275 人で、内、男性 982 人、女性 291 人 (23%)、不明 2 人であった。
- ②男性 982 人の中で、武士(帯刀者)は 85 人、武士か町人(はおり着用者) 498 人、町人は 264 人、僧侶は 22 人、その他(商人、職人など) 113 人であった。
- ③その他の内訳：かご担ぎ 30 人、天秤棒 14 人、片棒荷物担ぎ 11 人、太鼓たたき 16 人、出店 8 人、荷車運び 6 人、背負子箱 4 人、曲芸師 5 人、三味線弾き 2 人、物作り 4 人、獅子舞 3 人、牛引き 3 人、馬引き 2 人、風車売り 1 人、巡礼者 1 人、足不自由者小車乗り 2 人、物乞い 1 人



⑩芝居呼び込みの太鼓たたき。

⑧マークの布囲い



⑧母に風車をおねだりする子ども



⑨物乞い

七ツ

葛町遊廊

西小路遊廊

西本願寺掛所

東本願寺掛所

富士見原遊廊

図4 享元絵巻（復元模写）名古屋城振興協会蔵



12 獅子舞



13 天秤棒での魚  
(鯛) 売り



14 三味線をひく  
女性



15 洗濯をする女性



16 おもてなしを  
する女性

## ●女性 291 人に注目してみよう

①絵巻を北部(広小路、若宮、大乘院地区)、中部(大須観音、七ツ寺、西本願寺掛所地区)、および南部(西小路・葛町・富士見原遊郭、東本願寺掛所地区)に分けて、男女比をみると、北部 239 人中 49 人(21%)、中部 543 人中 127 人(23%)、南部 493 人中 115 人(23%)となり、遊郭のある南部に集中して現れていた、というより、全地区に女性が描かれていた。

②頭に注目すると髪を結っていたから女性とわかったが、そのうちの 81 人(28%)が編み笠を被り、30 人(10%)が白地の布で頬被りをしていた。ちなみに男性は編み笠被りの人が女性よりも多く 520 人(41%)、そのうち武士(帯刀者)は 6 割 50 人(59%)が被っていた。



名古屋城

すめ(後妻)の実家

朝日文左衛門家

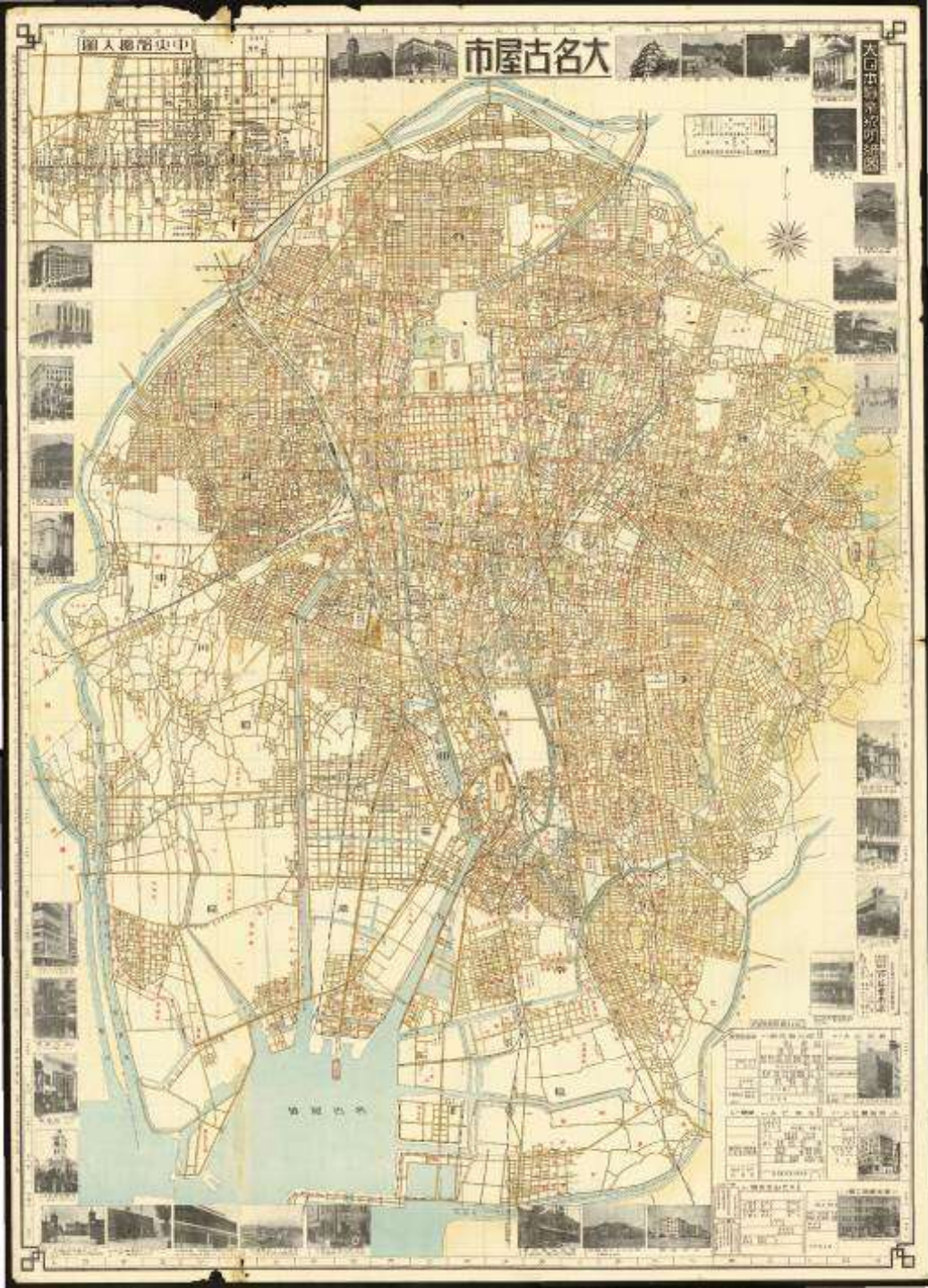
広小路→

けい(先妻)の実家

大須

「尾府名古屋図」正徳4年(1714)





# 大名古屋市 (昭和15:1940)

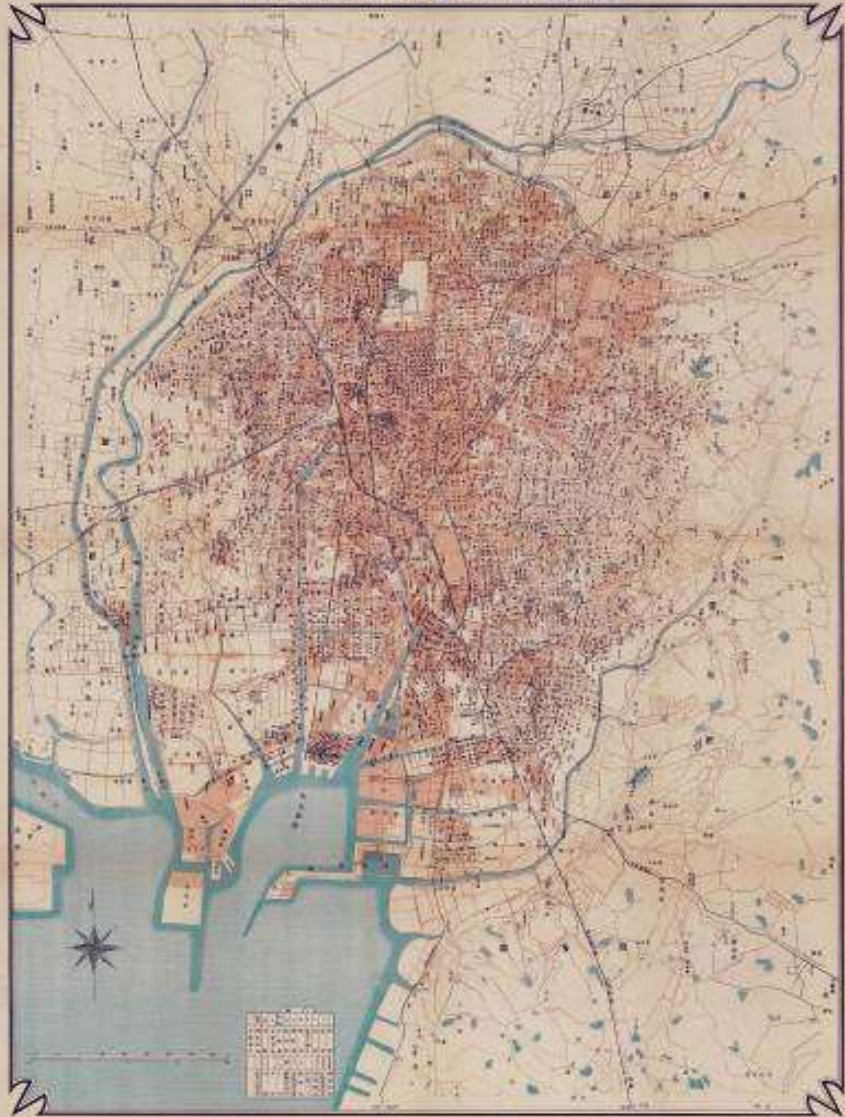
- 区画整理が進んでいたことが格子状の道路網によってわかる。
- 名古屋城と熱田神宮の軍事施設が消されていた。
- 四囲に主要建造物の写真が掲載
- 県庁(1938)と市役所(1933)が現在の位置に移動していた。



# 名古屋市焼失区域図

(昭和21:1946)

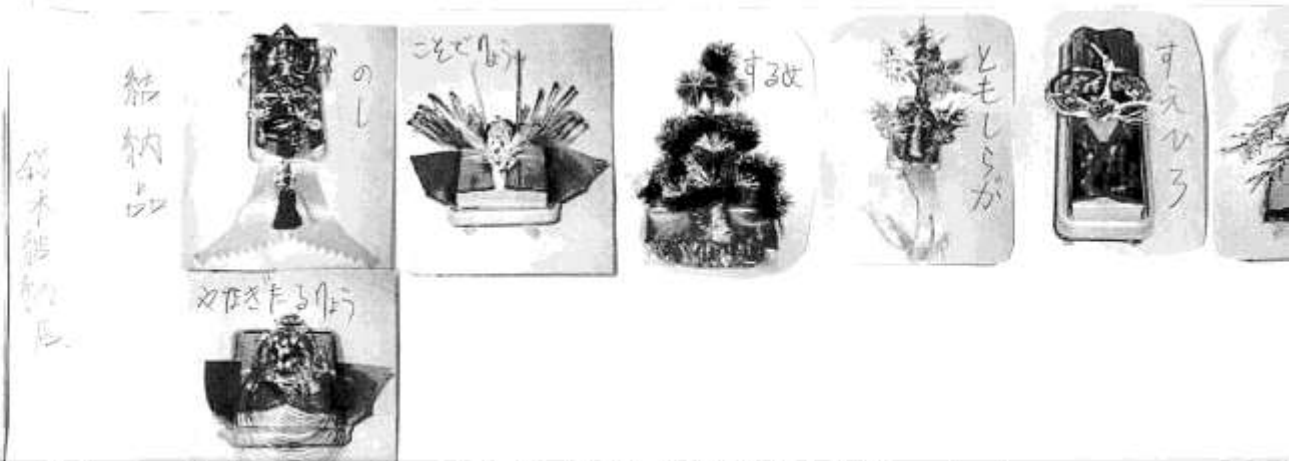
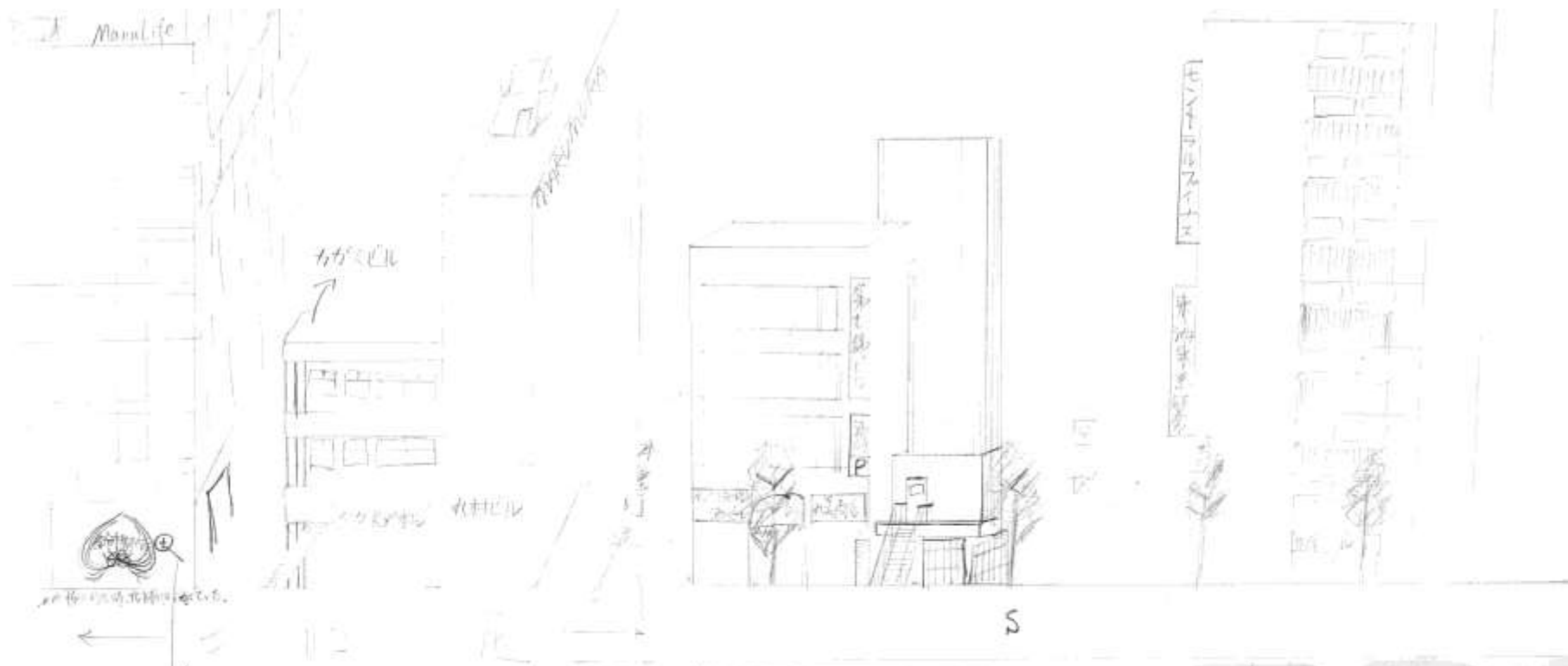
名古屋焼失区域図



・1945年3月12日大空襲。そして19日、中区碁盤割の吉田美智子さん(大正15生)の語り:B29が防空壕の中から1m先くらいにみえましたよ。編隊をくんで、焼夷弾を、ぱあーっと。3月12日の空爆でもう焼けて何もないのですよ。あれはしらみつぶしですね。本当にもう腹がたってきちゃった。



・市街地のほとんどが焼失(写真は「八木文」提供)



中国人留学生、結納の店を発見

## 2.本町通りの活性化案

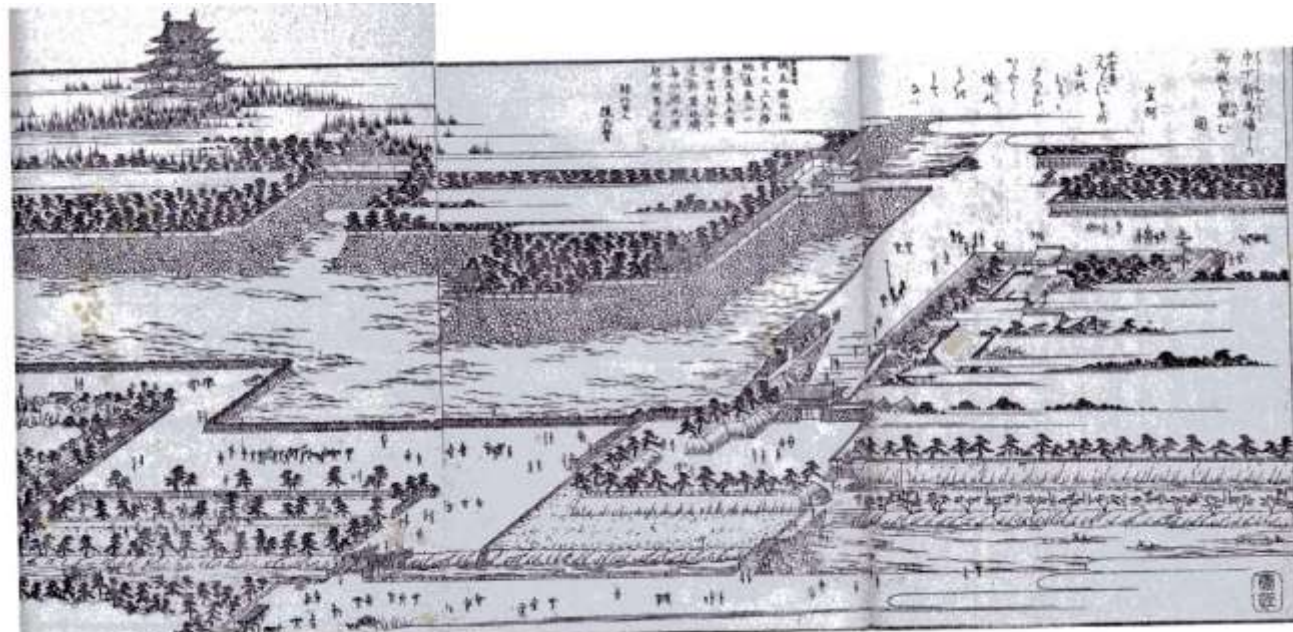
- 1)「城から宮へ」というストーリー作り
- 2)スタチュー(銅像)芸人の登場を願う
- 3)ゾウの町なごや、にしよう
- 4)下を向いて歩こう:マンホール歴史学
- 5)小さな親切を実践し、名古屋の良心をひろめよう

# 1)「城から宮へ」というストーリー作り

①城を出て、本町通りを歩いて、広小路で大道芸をみて、若宮八幡や大須観音でお参りし、赤福もちや芝居弁当を買って、芝居見物を大いに楽しむ。(享元絵巻の世界)

②もう一步、南へ行き、もっと楽しもう。富士見原、西小路、そして葛町遊郭だ。

幸せな人生だった。



名古屋城 →

出典:『尾張名所図会』1844

幸せな人生だったはずが、

③大須の南に行ったら、そこは仏壇街であった。そこで成仏できるなら、幸せかもしれないが、遊びすぎ、酒を飲みすぎて早死にする人も多かろう。

彼らを、より幸せにするために、仏から神にしてあげよう。そして、どんどん南に行くと、そこに熱田神宮があった。

人生を体験でき、考えることのできる道、それが本町通歩きである。

大須から熱田まで、楽しく歩ける道の整備を望みたい。

④熱田から七里の渡りで海路、桑名、そして伊勢神宮へ行ってよし、あるいは伊勢湾から東方の不老の国をめざしてもよい。

熱田神宮→

出典：『尾張名所図会』1844





Holyrood宮殿



ハリーポッターの学校とされるエジンバラ城と毎年夏にエリザベス女王が避暑にみえる  
ホリーロッド宮殿はロイヤルマイル(本町通)で結ばれている。

城と宮をつなぐ英国スコットランドのエジンバラ

2015.7.20撮影

2-2) スタチュー(銅像)芸人の登場を願う  
(コインを入れると笑ってくれる)



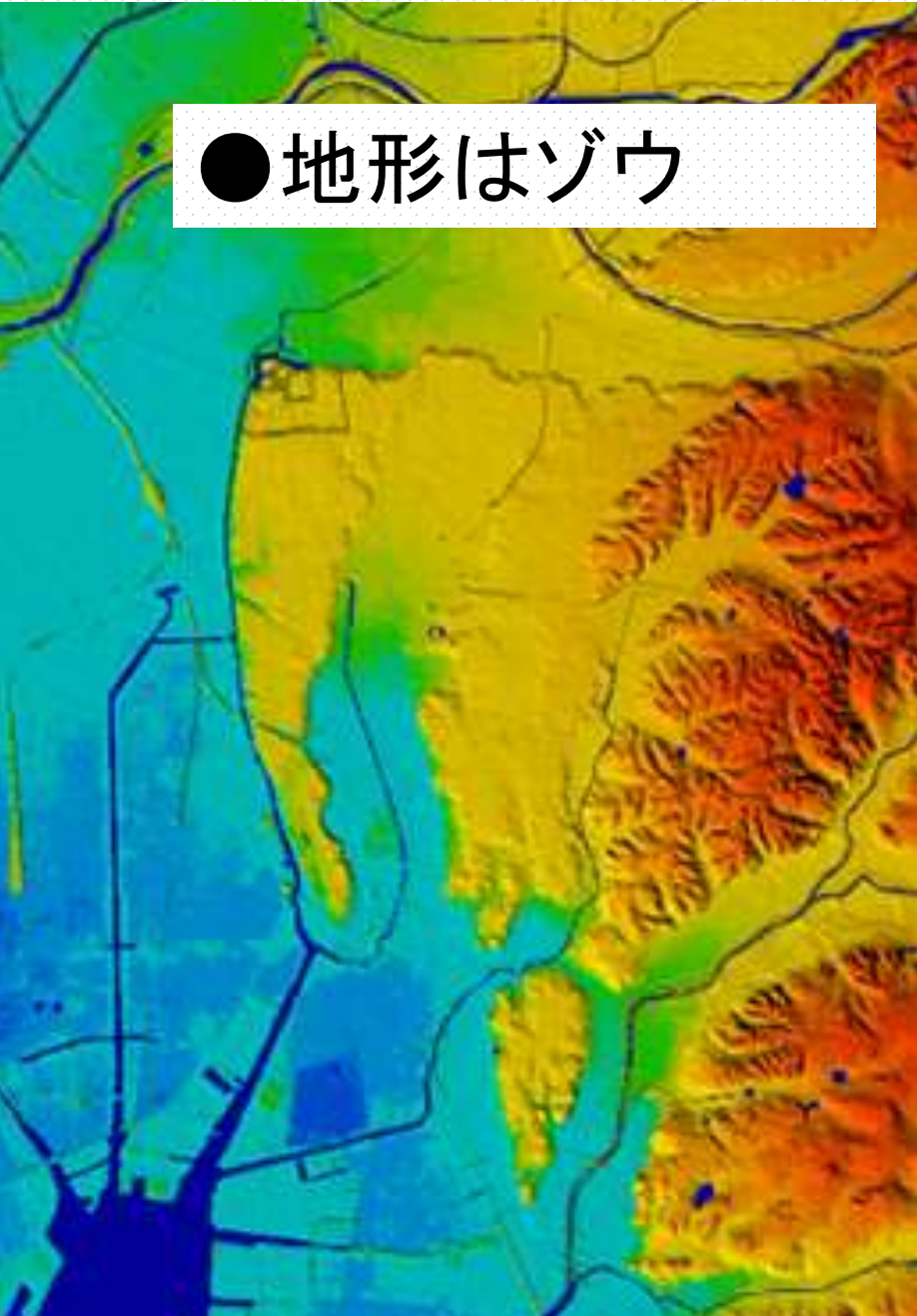
エジンバラのロイヤルマイルにて



ロンドンの街路にて

## 2-3) ゾウの町なごや、にしよう

### ●地形はゾウ



●享保14年(1729)4月に長崎より大象来る。京町筋と本町通りを通過して江戸へ向かった。

●東山動物園でもゾウが人気



## 4) 下を向いて歩こう: マンホール歴史学



松本市は手まり



下田市は黒船



長府市はフグ



高松市は源平合戦の那須与

## 5) 小さな親切を実践し、 名古屋の良心をひろめよう



●桜通りの桜天神でお参りしてから、本町通りの交差点に来たとき、突風が吹き角のお店の看板が倒れた。それをおば様お二人が力を合わせてもとの位置に立て直された。

◎こんな、自然な親切心に心うたれました。私もそうになりたい。(中京大の学生たちの声)

# 参考文献

- 『江戸期なごやアトラス』名古屋市総務局、1998(編著)
- 『歴史地理調査ハンドブック』古今書院、2001(編著)
- 『日本近世・近代の畑作地域史研究』名古屋大学出版会、2002
- 「近世日本の地誌と地域像－尾張藩撰地誌の世界」(第3章)、「歴史家の郷土語り－地域論と県民性」(第11章)、若尾祐司・羽賀祥二編『記録と記憶の比較文化史』名古屋大学出版会、2005
- 『古地図で見る名古屋』樹林舎、2008 (監修)
- 『古地図で楽しむなごや今昔』風媒社、2014(編著)
- 『名古屋地図さんぽ』風媒社、2015(監修)

溝口常俊 : [k46523a@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp](mailto:k46523a@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp)



東谷(名古屋市最高峰192m)より尾張丘陵越しに名古屋市中心部  
(左:テレビ塔、右:建設中の駅前ビル)

1998.2溝口撮影

おわり